

令和6年第1回定例会リトリート・温泉文化に関する特別委員会
03月04日-01号

◆今井俊哉 委員

リトリート推進について、今年度は1,044人泊ということで随分多くの方に来ていただいたと思うが、そうしたプラン利用者の声をどのように収集しているのか。

◎福田 観光魅力創出課リトリート推進室長

プラン利用者に直接アンケートに回答してもらっているほか、プランを販売している宿泊施設や旅行会社を通じて、利用者の意見を収集している。

◆今井俊哉 委員

利用者の声だが、例えば、Google マップなども口コミ記入などがある。そうしたところに集まる内容は、満足した点と不満な点の大きく2つに集約されると思う。ここで必要なのは、それに加えて今後望むもの、どういったものがあると良いかという要望に近いものだと思う。そうした要望に関しては、やはりこちらから水を向けないとなかなか出てこない。これに関しては多少コストをかけてでも取っていいと思う。例えば、アンケートに回答いただいた方には、簡単なグッズなどのプレゼントをするなども検討してもらいたい。

また、有害鳥獣は、駆除の対象である一方、食肉（ジビエ）やなめし革などとして利用することで観光コンテンツになり得ると考えるがいかがか。

◎福田 観光魅力創出課リトリート推進室長

旅行者のニーズに応えるためにはコンテンツを充実させることが必要であり、有害鳥獣の活用もその一つになり得ると考えている。そうした地域ならではの観光資源を活用したコンテンツの開発も応援していきたい。

◆今井俊哉 委員

温泉文化のユネスコ無形文化遺産登録推進に向けた機運醸成について、来年度どのように取り組んでいくのか、方針について伺いたい。

◎山中 文化振興課温泉文化推進主監

実施主体を増やす取組と一般の方に知ってもらう取組を行いたい。実施主体を増やす取組は、企業や団体を対象に、温泉文化の機運醸成の取組を公募し、優れた提案について、群馬県が委託して実施する事業を行いたい。一般の方向けには、温泉文化を知ってもらうため、インパクトのあるプロモーション動画の制作やフォロー

ムの開催を予定している。

◆今井俊哉 委員

機運醸成について、群馬県に関して言えば、行政側も議会側もある程度共通認識を持って動いていると思うが、47都道府県を見渡してみると温度差が気になるところである。やはり全国的な共通認識に育てていく必要がある。そこで、他県の議会や執行部の動きはどうか。

◎山中 文化振興課温泉文化推進主監

星野議員を中心とした県議団が、他県の議会に働きかけをしていただいております。群馬県に視察に来たところもある。執行部については、知事の会で連携しており、群馬県の取組を紹介し、他県でも機運醸成に取り組むよう依頼している。

◆今井俊哉 委員

今後の課題として、他県の現状の把握と働きかけが大事だと思うがどうか。

◎山中 文化振興課温泉文化推進主監

引き続き、情報収集に努めるとともに他県と連携して取り組んでいきたい。